

学校評価の集計結果と今後の手立てをお知らせします

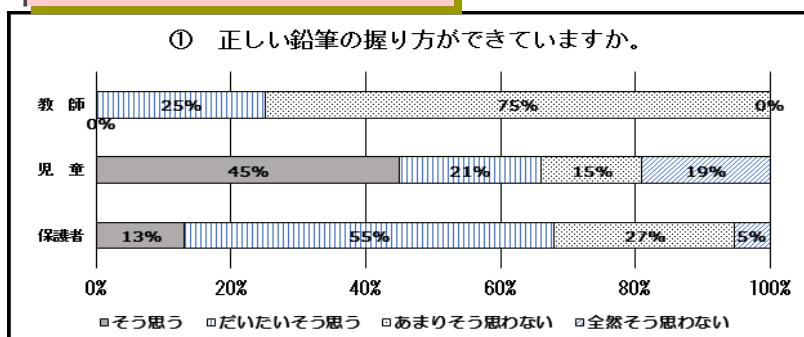
11月に実施した学校評価の結果を受けて、今後の手立てをお知らせします。調査への御協力ありがとうございました。

調査対象：児童・保護者・地域の方・教諭
調査時期：11月下旬

1 顕著に差があり、検討すべき項目

知について

① 正しい鉛筆の握り方



<分析>

児童・保護者共に、肯定的な回答が60%以上である。しかし、教諭の肯定的な回答は25%と低く、三者で認識の差が大きい。

<改善策>

「正しい鉛筆の握り方とその意義」について、学校と家庭が同じ認識の下、継続して指導できるような手立てを考えていきたい。

正しい鉛筆の握り方とは

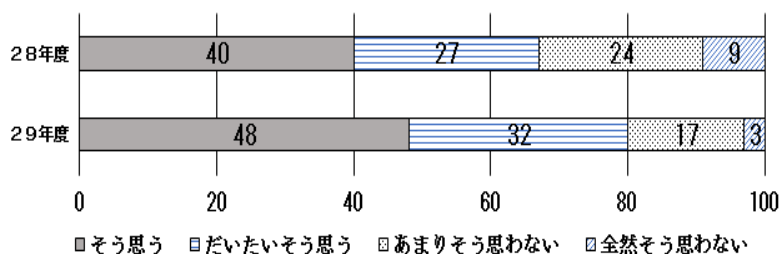


正しく鉛筆を持てると、学力も上がってくる

- きれいな字が書ける
- 手・腕・肩・首・目が疲れない
- 姿勢がよくなる
- 勉強に長時間集中できる
- 学習意欲が出てくる
- 見た目がよい

② 読書の実態と学力向上

○ 朝の読書の時間、授業中や昼休み時間に図書室に行き、本を読んだり、本をかりたりしていますか。【児童の回答】



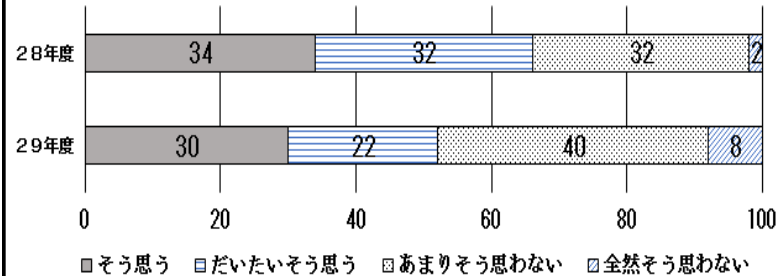
<分析>

児童の読書量は、前年度比13%上がっている。しかし保護者から見た読書習慣は、前年度比14%下がっている。この相反する結果となったのは、漫画本の貸し出し数が比較的多く、短時間で読み終わるものであったことが大きい。

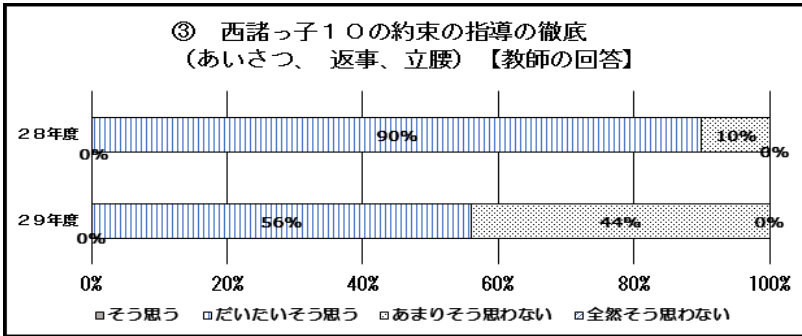
<改善策>

本年度目標とした読書量（下学年100冊・上学年50冊）は、十分達成できそうである。今後は、文章でつづつてある本を優先的に借りるよう指導していきたい。抵抗のある児童には、文字の比較的大きいものから挑戦させたい。また、日頃から読解力をつけるため、家庭学習の際、読み声（主に国語の教科書を音読すること）にも力を入れてほしい。

○ 児童は本を読む習慣が付いていると思う。【保護者】



③ 西諸っ子10の約束の指導の徹底



<分析>

肯定的な回答が、前年度と比べて34%も低下している。

<改善策>

月目標を西諸っ子10の約束の中から設定する。さらに、毎朝登校時に月目標を唱えて意識させる。

2. 自由記述から

※主な意見をまとめて記載しております。

☆1 学校以外の行事にも参加させてもらいたい。自分で自分を成長させることができるし、積極的な人になると思う。(地域の方)

⇒ 毎日少人数の同じ集団で活動しているので、学校からも是非チャレンジさせていただきたいと思います。

☆2 「自分の考えを言葉や文章で表現する力を身につける。」とあるが、感想文では「おもしろかった。楽しかった。」のように書くことが多い。もっと自分らしい考えを出せるようになってほしい。(保護者)

⇒ 「自分の考えをもつこと」は、AI(人工知能)と生きていくこれからは、特に必要な力です。自分の考えをもってAIを使いこなす力が求められています。ではどうすればいいのでしょうか。3つ示します。

- ①授業～自分の考えをしっかりと発表したり書いたりする。
- ②家庭学習～進んで取り組み、読み声(国語の教科書)は、すらすら読めるまで練習して、学びの土台となる力をしっかりつける。
- ③読書～読んだら感想をもつ。

学校評価結果や子どもたちの現状を受けての 来年度の経営の方向性を示します

①自分の考えをしっかりとてるようにする

- 主体的・対話的で深い学びを継続する。2020年の新学習指導要領本格実施を前に、対話的で深い学びをさらに推進していく。

②学校と家庭の連携を強め、ともに子どもたちを育てる

- 家庭との連携による教育活動推進の手立てをさらに工夫する。

③他校の児童や地域の方との交流の機会を増やす。

- 井の中の蛙のままでは伸びない。子どもたちに刺激を与えよう。
- 社会に開かれた教育課程(社会総掛かりで子どもを育てる)という視点から、教育課程を見直し、地域の方との交流活動のあり方を考えていく。

④対外的なものへの挑戦の機会を増やす。

- 作品募集や校外での活動への参加を勧め、多くの機会を児童に提供する。

御協力ありがとうございました。みんなの力で、紙屋っ子をさらに一步一步伸ばしていきましょう。
紙屋小学校 校長 齊田泰子